

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 30
2019.12

平成から令和へ

想いをつむいでいこう!

—高麗祭 Next Stage

 城西大学

 城西短期大学

坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
<https://www.josai.ac.jp>

秋季学位記授与式・卒業証書授与式、入学式

ゼミ登場

竹村ゼミ / ナノ機能化学研究室

 学長セミナー 始まる — 今秋から開催

目次

- 02 想いをつむいでいこう！
——高麗祭Next Stage
3J Festival
三大学連携特別講演会
- 04 秋季学位記授与式・
卒業証書授与式、入学式
学長セミナー 始まる
——今秋から開催
留学生歓迎会
経済学部生が韓国でビジネス研修
- 05 地域連携活動報告会で6チームが発表
全日本大学女子駅伝6位入賞／
箱根駅伝予選会15位
硬式野球場を全面人工芝化
ケアドリンク「RUNSHOT」発売
- 06 [シリーズ]ゼミ登場
〃経済学×心理学、で現象を理論化
——来年度はデータサイエンスも学ぶ(竹村ゼミ)
微粒子に機能閉じ込め
新規材料も生み出す(ナノ機能化学研究室)
- 07 [シリーズ]フォーカス
水墨画家 市川玉悠さん
附属城西高等学校「インターアクト部」
- 08 [シリーズ]先輩訪問
株式会社ゼンコー代表取締役社長、同窓会副会長
海野弘幸さん
- 09 [シリーズ]図書館だより
- 10 [シリーズ]美術館通信
展覧会開催報告
次回展覧会
- 11 [エリア紹介]
ときがわ町 「萩日吉神社のやぶさめ」
来年1月に開催
越生町 武蔵越生七福神めぐり
東武線沿線情報 見どころいっぱい
横浜ベイエリアへ

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

年号が平成から令和にかわった今年。キャンパスでは図書館棟の東隣に22号館が新たに竣工しました。来年には新複合棟23号館の建設が始まります。キャンパスがその装いをかえていく中、高麗祭もその歴史をつむいできました。52回目の高麗祭のサブタイトルは「ネクストステージ」。新たな段階に臨もうとする実行委員会の意気込みが表れていました。



平成から令和へ

想いをつむいでいこう！ ——高麗祭Next Stage

2019
11.2
~4

「変化と結束を大切にして成果を共有」(白幡学長) 父母後援会、同窓会による物産展などに来場者が列

「平成から令和へ想いをつむいでいこう！～高麗祭Next Stage～」——。第52回高麗祭は11月2日から4日まで開かれました。2日の開祭式は久我琴音さん(薬学部薬学科2年)の司会で行われました。瀬谷祐一・高麗祭実行委員長(経営学部4年)は挨拶で「先輩の方々が積み上げてきた伝統を今回の高麗祭を通して未来へつなげたいという気持ちを込めて、このテーマに決定いたしました。先輩方が創り上げてきた想いや伝統を受け継ぎつつ、新しい高麗祭を創るとともにさらにより良い高麗祭を創ろうと思います。かかわったすべての方々に高麗祭を楽しんで頂けたら幸いです」と述べました。

来賓挨拶で白幡晶学長は「この表題には、変化と結束を大切にしようという皆さんの強い意気込みを感じます。コミュニケーションを広げ、思っていることを全部話し、笑い合い、成果を共有するという爽快感を生み出してください」と語りました。また佐々木美帆・中央委員会委員長(経営学部4年)は「今年度は22号館が新たな学び舎として開かれ、城西大学の活気がより一層高まっていると実感しています。仲間との4年間の集大成として、皆さまに楽しんでいただける高麗祭を創り上げていきます」と述べました。

この後、ハンガリーやポーランド、中国、韓国、マレーシア、台湾の留学生がステージ前に立ち、代表してポーランド・ワルシャワ大学からの留学生、ペブオンスキ・マチェイさんが「17号館で留学生展示をし、歌と踊りのステージパフォーマンスを披露します。日本人の学生の皆さま、ぜひ遊びに来ていただきたい」と呼びかけました。

3日間とも天気恵まれ、元宮崎県知事でタレントの東国原英夫さんの講演会や俳優の城田優さんのトークショー、「ジャングルポ

ケット」などのお笑いライブ、「城西寄席」のほか、全学応援団チアリーダー部の演舞、ビブリアバトル、広報ステージ、クラブ発表会など多彩イベントが展開されました。また、各教室では文科系サークルの発表会やパフォーマンスがありました。

初日には、清光会館前で父母後援会と同窓会による恒例の物産展が開かれ、地域の方々から多くの来場者でにぎわいました。メインストリートと17号館前では期間中、各種の露店もお目見え、学生や家族連れが列をつくりました。

実行委員会が選ぶ今年の【高麗祭大賞】には、薬学部薬学会が輝きました。その他の賞は次の通り。【理事長賞】天文学研究会【学長賞】漢方研究会【父母後援会長賞】写真部【同窓会長賞】卒業アルバム編集委員会【学生部長賞】シューレース



3J Festival

地域の方々など来場者でにぎわう

2019
10.14

——世界エアギター王者 名倉さんのステージや模擬店、イベントを展開

城西大学、城西短期大学、城西国際大学の3校合同の大学祭「3J Festival」が10月14日、東京紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。3Jとは、三つの大学の頭文字「J」からとったもの。日ごろ同じキャンパスで学ぶ三つの大学の学生が一つになって立案、運営しています。

今年で3回目となった合同大学祭は開祭のあいさつ=写真①=の後、様々なイベントが展開され、地域の方々を含め来場者でにぎわいました。2018年の世界エアギター選手権でチャンピオンになった名倉七海さん(メディア学部出身)のライブとトークショーのほか、「しずる」らによる初の吉本興行芸人によるお笑いライブも行われました。また、タピオカ、焼きそば、ヨーヨー釣り=写真②=などの模擬店もお目見え、来場者を楽しませました。



三大学連携特別講演会

——「生活の中のダイバーシティ」

2019
11.2

(現代政策学部・真殿准教授)

高麗祭初日の11月2日、17号館で城西大学、明海大学、日本医療科学大学の三大学連携による特別講演会が開催されました。三大学は昨年7月に、教育・研究活動の包括的な交流を目的に連携協力協定を締結しました。連携の一環として今回の特別講演会を企画。「ダイバーシティ(多様性)」をテーマに三大学の研究者がそれぞれの分野から講演を行いました。

本学の真殿仁美・現代政策学部准教授は「生活の中のダイバーシティ」▽明海大学の石隆介・経済学部准教授は「経済的見地から見たダイバーシティの効果」▽日本医療科学大学の天野修司・保健医療学部准教授は「国際情勢を客観的に捉える」として講演。司会進行は明海大学の坂上宏・歯科医学総合研究所教授が務めました。講演会後にはパネルディスカッションも開催され、これからの少子高齢化社会をどう生きるのか、会場からも多くの質問が出るなど有意義な講演会となりました。



講演する真殿准教授

秋季学位記授与式・卒業証書授与式、入学式

92人が巣立ち 新たに46人が仲間入り

2019
9.20



令和初の秋季学位記授与式・卒業証書授与式と入学式が9月20日、清光ホールで執り行われました。この日、城西を巣立ったのは留学生を含む92人。新たに城西の仲間入りしたのは、中国、韓国、台湾、ハンガリー、ポーランド、ベトナム、マレーシアの7カ国からの留学生46人でした。

授与式では白幡晶学長と草野素雄短大生から大学院卒業生のほか、学部、別科、短大の代表者に学位記や卒業証書が手渡されました。また、入学式では、大学院、学部、別科ごとに新入生の紹介がありました。

白幡学長は告辞で卒業生に向けて「自分にとって、これだと思ふことをチャレンジしながら見つけてください」と呼びかけ、新入生に対しては「どうか古めかしい大人たちの常識や先入観にとらわれることのない発想を、このキャンパスで仲間たちとともに培ってほしい」と激励しました。上原明理事長は祝辞で「自分の人生は自己責任。積極的、前向き発想、目標志向で毎日を過ごしていただきたい。私自身が歴史をつくるんだという気概を持って大いにこれからの人生を歩み、かつ城西大学で勉強していただきたい」と語りかけました。



来賓祝辞に続き、卒業生を代表して平野愛さん(薬学部薬学科)＝写真①＝が「城西大学の卒業生であることに誇りを持ち、ここで得た知識や経験を生かし、明るい未来に向かって広く社会に貢献したい」と答辞。また新入生を代表して中国の大連外国語大学からの留学生、李潤鑫さん(現代政策学部)＝写真②＝が「城西大学と私たちの国々が、ますます強い絆で結ばれるよう、私たち留学生が懸け橋になれるよう努力していきたい」と誓いの言葉を述べました。

学長セミナー 始まる — 今秋から開催

第1回は石坂典子さん、第2回は古市盛久さん

2019
9.14、
10.26

白幡晶学長が感銘を受けた方をお招きする「学長セミナー」が今秋から始まりました。

9月14日の第1回の登場は、石坂産業株式会社代表取締役社長の石坂典子さんでした。石坂さんは、所沢周辺の農作物がダイオキシンに汚染されているとの報道を機に「私がお金を稼ぐ」と創業者の父親に直談判。2002年に2代目社長に就任、産業廃棄物業界を変革する経営に取り組まれています。講演では、不法投棄の絶えなかった雑木林の再生やエネルギーを創出する産業への転換を目指し、会社の社会的価値を明確にすることで社員の意識を変革してきたことなどを語っていただきました。



第1回に登場した石坂典子さん(右)

学長との対談や会場からの質問に対する答えでは、学校でどのような学びをしたかでの大きな違いがある、自分の子育てでは親の真の姿を見せることが大切などと話していただきました。第2回は10月26日に家事代行などのボランティアをビジネス化した株式会社御用聞き代表取締役社長、古市盛久さんをお招きました。空いている時間を利用して学生に社会で活動してもらおうビジネスで黒字経営を続けている話をされたほか、サービスのインフラとして「第5のインフラを日本で作る」という将来構想も披露していただきました。11月23日の3回目は、経済学部卒業生でラーメン専門店の株式会社社麺屋武蔵代表取締役社長、矢都木二郎氏をお迎えしました。

学長との対談や会場からの質問に対する答えでは、学校でどのような学びをしたかでの大きな違いがある、自分の子育てでは親の真の姿を見せることが大切などと話していただきました。

第2回は10月26日に家事代行などのボランティアをビジネス化した株式会社御用聞き代表取締役社長、古市盛久さんをお招きました。空いている時間を利用して学生に社会で活動してもらおうビジネスで黒字経営を続けている話をされたほか、サービスのインフラとして「第5のインフラを日本で作る」という将来構想も披露していただきました。11月23日の3回目は、経済学部卒業生でラーメン専門店の株式会社社麺屋武蔵代表取締役社長、矢都木二郎氏をお迎えしました。

地域連携活動報告会で6チームが発表

2019
11.22

今年度の地域連携活動報告会が11月22日、水田三喜男記念館講堂で開かれました。地域で取り組んでいる活動内容を共有し、今後の教育や地域活動の向上に役立てることを目的に開催しています。

今年度は6チームが発表しました。

- (1)「プレーパークまつり2019」と「おちかくプレーパーク」＝勝浦ソフオマセミナー
- (2)「The Young Americans 2019 Haru in Sakado」＝勝浦セミナーI
- (3)「地域振興におけるローカルヒーローの研究、実践」＝石井龍太セミナー
- (4)「リレー・フォー・ライフ JAPAN 2019 in 川越」＝勝浦ソフオマセミナー
- (5)「第5回つるがしマルシェ2018」＝勝浦セミナーII
- (6)「ぼくらが過ごした坂戸日記」＝庭田文近政策セミナー

参加した学生からは以下のような感想が報告されました。

「子供への対応の仕方が分かった」▽「保護者の方にもとても感謝されてやりがいを感じた」▽「感謝の言葉は、忘れることの出来ない経験につながった」▽「コミュニケーションが、さらに向上されたように感じる」▽「普段の生活でも積極的になった」▽「情報のインプット、アウトプットの能力が育まれる」▽「学生ではなかなか経験できなかった」▽「就職活動で企業が興味を持ってくれる」



発表風景

留学生歓迎会

80人が参加し交流深める

2019
10.11

留学生歓迎会が10月11日、第2食堂で開かれました。国際教育センターが主催し、9月に来日したハンガリー、ポーランド、中国、韓国、台湾、マレーシアの姉妹校からの交換留学生や共同教育プログラムの留学生を中心に、すでに入学している他の留学生や別科で日本語を学んでいる留学生など約80人が参加しました。国際交流をサポートするボランティアの学生グループ「JIST」のメンバーが会場設営や会の運営、司会などで参加しました。

歓迎会は賑やかでも和やかなムードの中、城西大学で学ぶ留学生と日本人学生の交流が深まる機会となりました。国ごとの留学生紹介では、それぞれの国の代表者が城西大学での留学期間中の抱負や目標などを日本語でスピーチ、大きな拍手を受けました。その後、JISTのメンバーたちが、留学生を歓迎して歌と踊りを披露し、途中からは留学生も加わって肩を組んで歌う展開になりました。

歓迎会は賑やかでも和やかなムードの中、城西大学で学ぶ留学生と日本人学生の交流が深まる機会となりました。国ごとの留学生紹介では、それぞれの国の代表者が城西大学での留学期間中の抱負や目標などを日本語でスピーチ、大きな拍手を受けました。その後、JISTのメンバーたちが、留学生を歓迎して歌と踊りを披露し、途中からは留学生も加わって肩を組んで歌う展開になりました。



経済学部生が韓国でビジネス研修

— 物流拠点、サムスン電子など訪問 文化体験も

2019
8.26～
9.2

経済学部の学生17人が8月26日から9月2日までビジネス研修で韓国を訪問しました。李熙錫学部長が引率し、応募した1～3年生が参加。ソウル市や大田市、釜山市を訪れました。

今回の研修では、韓国の物流拠点(仁川空港、釜山港新港)、企業(サムスン電子、ロッテホテル、アモーレパシフィック化粧品製造会社)を訪問したほか、文化体験(京福宮見学、広蔵市場、仁寺洞、ビビンバ体験、伝統結婚式体験など)もしました。また、海外提携校である東西大学と建陽大学の学生とも交流しました。釜山港新港は世界的な物流拠点で、今回は普段VIPしか立ち入ることのできない埠頭を特別に見学することができました。

日韓関係がぎくしゃくする中での訪問でしたが、トラブルなく帰国することができました。学生間交流では、ボウリングに行ったり、買い物にいたり、美味しいものを案内してもらったりと交流を深めることができ、参加学生には大きな刺激になったようです。李学部長は「今回の研修で学んだことをこれからの学習や留学、進路に活かしてほしい」と話しています。

▼アモーレパシフィックにて



硬式野球場を全面人工芝化 — 来年2月完成予定

下川原グラウンド(仮称)の新サッカー場も人工芝へ

2019
11～

硬式野球場が全面人工芝に改修されることになり、11月から工事が始まりました。来年2月に終了します。2013年には総合グラウンド内のサッカー場が人工芝化、来年9月末に竣工予定の下川原グラウンド(仮称)の2面の新サッカー場も人工芝化の予定です。

工事期間中、硬式野球部員は他球場を借りての練習以外は、ランニングや筋トレ、体幹トレなどで体を徹底的に鍛えるといいます。今シーズンは、春秋とも首都大学野球リーグ戦の2部5位に終わった硬式野球部。全面人工芝化は、遅くなるであろう部員たちが目指す4年ぶりの1部昇格を後押ししてくれるそうです。



硬式野球場完成イメージ



下川原グラウンド(仮称)完成イメージ

ケアドリンク「RUNSHOT」発売

— 男子駅伝部が開発協力

男子駅伝部が開発に協力したコラーゲンペプチドとクエン酸などを配合したケアドリンク「RUNSHOT(ランショット)」＝写真＝が発売になりました。



これまで新田ゼラチン株式会社と薬学部医療栄養学科(管理栄養士養成課程)の共同研究で、コラーゲンペプチドが膝の痛みの軽減や筋肉の分解抑制に効果があることが分かってきました。今回、故障に悩む男子駅伝部員の協力で臨床試験を重ねて新商品開発にこぎつけました。コラーゲンペプチドに疲労回復に役立つクエン酸と筋肉に必要な必須アミノ酸BCAAを加えたことによって、「ジョイントメンテ&リカバリー」がこのケアドリンクの特長となっています。選手たちからも「ケガをしにくくなった」「疲れを翌日に持ち越さなくなった」などの声が上がっているといいます。新田ゼラチンの通販子会社「ニックバイオラボ」が、オンラインショップで120g×6本セット1500円(税別)で販売しています。

女子
駅伝部

全日本大学女子駅伝6位入賞 2年ぶりシード権

2019
10.27



レース後に笑顔でポーズの選手たち

第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は10月27日、宮城県仙台市で6区間38.1kmで開かれ、1年生4人を起用した女子駅伝部は2時間9分9秒の6位入賞で来年のシード権を2年ぶりに奪

得。併せて12月30日に開かれる全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)への出場も決めました。9月の関東大学女子駅伝では8年ぶり11回目の優勝を果たし、25年連続26回目の全日本に臨みました。

1区で出遅れたものの、エース区間の5区で福岡摩耶選手(経営学部1年)が区間3位と8人抜きの快走で7位とシード権入りし、最終6区で主将の三ツ木桃香選手(現代政策学部4年)が区間最高で順位を上げました。赤羽周平監督、有紀子コーチの下で、3度目の「日本一」を目指す女子駅伝部が復活のステップが上がっています。

男子
駅伝部

箱根駅伝予選会15位 本戦出場逸す

2019
10.26

一方、男子駅伝部は10月26日に東京都立川市で開かれた第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の予選会に臨みましたが、11時間2分27秒で総合15位となり、10位までの本戦出場に届きませんでした。今年正月の第95回大会で20位に沈んだ男子駅伝部。新チームは3年連続16回目の本戦出場を目指して予選会に挑みましたが、叶いませんでした。

ハーフマラソン(21・0975km)コースで行われ、各校12人が出走し上位10人の合計タイムで競いました。エースの萩久保寛也選手(経営学部4年)が1時間3分12秒で日本人2位、全体でも6位と力走。菊地駿弥選手(同3年)、松尾鴻雅選手(同2年)、大里凌央選手(同3年)も1時間4分台で50位以内と健闘しましたが、総合では10位の中央大学に5分41秒及びませんでした。日本人2位でゴールに向かう萩久保寛也選手



ゼミ登場

竹村ゼミ 竹村 敏彦 教授

「経済学×心理学」で現象を理論化 — 来年度はデータサイエンスも学ぶ

経済学部の2年生対象のソフオモセミナーで行動経済学を学んでいるのが、竹村敏彦教授のゼミです。行動経済学は、心理学の研究を援用しながら、伝統的な経済学では説明できなかった現象の理論化を目指すという比較的新しくてエキサイティングな学問です。竹村教授は「リアルな人間を対象にした学問なので、学生にとっては、日ごろ自分自身の取っている何気ない行動や癖について理解を深めることができるという点で面白みを感じてくれているのでは」と話します。現在6人が、自分たちで選んだ行動経済学の書籍の内容を整理し、担当を決めてプレゼンテーションを行い、全員が活発な議論をしています。また竹村ゼミではゼミ合宿や定期的な懇親会なども行い、教員と学生との交流も頻繁に行われています。ゼミ長の大関 礎さんは「ミクロ経済学やマクロ経済学と違って、実生活にリアルに落とし込める学問なので、自分の日頃の行動を振り返ることもでき、行動経済学を勉強することはすごく面白いし、とてもためになる」と語ります。

経済学部では2020年4月に、最近脚光を浴びている「データサイエンスコース」がスタートし、竹村教授を中心としてその準備が進められていま

す。日々生まれる膨大なデータを整理・分析し、ビジネスやスポーツ、医学など様々な分野に活用できるよう価値を見出すことを目的とした学問がデータサイエンスと呼ばれるもので、文系学部では全国的に珍しい試みです。来年度の竹村ゼミ(ゼミナールI)では、今の6人を含め約20人の3年生が、行動経済学とデータサイエンスを学びます。これまでになかったことをやるチャレンジングなゼミになりそうです。竹村教授は「分野融合・分野横断的視点を持った教育を行い、学生たちの持つ潜在的な能力を引き出していきたい。社会で生きていくために実際に使える学習をしてもらいたい」と話しています。



中央が竹村教授、その右が大関ゼミ長

ナノ機能化学研究室 宇和田 貴之 准教授

微粒子に機能閉じ込め新規材料も生み出す

ナノ発光材料の開発を中心に手掛けているのが、理学部化学科の宇和田貴之准教授が指導する「ナノ機能化学研究室」です。「10のマイナス9乗(ナノ)メートルくらいの、人間の目では見えないほどの小さな微粒子を作り、その微粒子に色々な機能を閉じ込める。そういう材料をつくっています」と、宇和田准教授は研究室を分かりやすく解説。さらに「その機能が光であれば、病気発見のための標識や太陽電池の材料などの用途が考えられます。最近ではディスプレイの材料にも使われています」と実用化についても説明いただきました。このほか、研究室では、タンパク質による新規の光学材料を生み出す研究も行っています。

今年度は4年生4人が学んでいます。新しく注目されている材料の光り方の研究をしている久保典孝さんは「レーザー顕微鏡など高度な機器を使うことに慣れて研究室を選びました。製造業希望で、機器を使う楽しさを知ることができました」と語りました。タンパク質を使って微粒子を作る研究をしている宇賀田貴帆さんはアパレル志望。「3年生の時の研究室見学の際に、宇和田先生は面倒見がいいと聞いて選びました。研究は進路に生かせるはず」と述べました。高校理科の教員志望という庄田智美さんは「物質が光るといのが、自分に

としては新鮮でした。研究の方向性や道筋を示してくれるのがこの研究室の良いところ」と強調。印刷関係に進むという古瀬充さんは「実験などの細かい作業の経験は就職しても生かせる。先生も優しく、居心地の良い研究室です」と語りました。

大型連休中のバーベキューに始まり、年数回の懇親会で親睦を図っています。「この世界をつくっている物質がどのような性質を持っているか、研究を通じて実感、理解してほしい」と言う宇和田准教授。「化学にかかわることは、自分が新しいものに取り組もうとする時にも役立つと思います。それぞれの研究テーマを通じて成長していったら」と話しています。



右端が宇和田貴之准教授

フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンと附属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、坂戸市在住の水墨画家の市川玉悠(武弘)さんと附属城西高等学校のインターアクト部にフォーカスしました。

新天皇即位記念画を須賀神社に奉納

水墨画家 市川玉悠さん

サラリーマンだった市川さん(74)は30年前に水墨画と運命的に出会い、これまで数百点の作品を制作。全日本水墨画秀作展などで受賞歴多数。雪舟国際美術展で特選となった作品「涌雲雪嶺」(50号)を昨年、市に寄贈したほか、令和元年の今年には靖国神社宮司の依頼を受け、新天皇即位記念の水墨画を東京都新宿区の須賀神社に奉納しました。現在、一般社団法人雪舟国際美術協会委員・埼玉支部長、雪舟国際美術展審査員など。各地に水墨画研究会を設立。小中学生を対象にした体験教室を開くなど水墨画の普及にも尽力されています。



作品を背に語る市川さん

—水墨画との出会いは?

「30年前になりますか。仕事で精神的に追い詰められていた時に、都内で開かれていたサラリーマン文化芸術振興会のイベントをのぞいて、水墨画と手品に出会いました。後に弟子入りした水墨画の第一人者だった関澤玉誠先生の作品に魅せられました。「水墨画に五彩あり」と言いますが、黒と白だけなのに色を感じる。それが魅力でした。新しい世界が開かれるのではないかと。それは衝撃的でしたね」

—ハワイでも指導されている?

「2012年、玉誠先生とともにハワイの日系人を中心に指導、普及を図りました。その結果、現地でハワイ水墨画会が立ち上がりました」

—各地で研究会や市民塾を主宰されています。普及への思いはどこから?

「世田谷など東京で2カ所。埼玉で5カ所。計約60人を指導しています。グループ展は年10数回。来年4月に開く世田谷水墨画展では全員が作品を展示します。玉誠先生が3年前にお亡くなりになり、先生の思いを引き継いで、日本の伝統的な芸術をきっちり守り、広めていきたいと思っています。子どもたち対象の体験教室を開いているのも、今は無理でも将来大人になった時に、思い出してもらって水墨画を描いてもらいたいとの思いからなんです」

難民の子どもたちに服を贈る運動など行う

附属城西高等学校「インターアクト部」

インターアクトクラブ活動とは、ロータリークラブの支援を受け12~18歳の生徒たちが行う社会奉仕活動のことです。附属城西高校のインターアクト部は1981年発足。国際ロータリー第2580地区のサポートを受け、関東の5高校と沖縄の5高校が様々な実践活動を行っています。現在部員は7人。8月に行う年次大会のほか、地元の神社のお祭りの手伝いや、あしなが育英会やユニセフの募金活動、難民の子どもたちに服を贈る運動「届けよう服のチカラ」プロジェクトも行っています。「届けよう服のチカラ」では、夏休み前に全校生徒にチラシを配布、近所の幼稚園や保育園にも呼びかけ、10

月に段ボール18個分もの子ども服を事務局に送りました。

最大のイベントである年次大会は3年に1度

沖縄で開かれています。昨年はメンバー5人が2泊3日で沖縄を訪問しました。各校メンバーが混ざったグループ討論会を行ったほか、サンゴ染体験やバーベキューなどで親睦。米軍基地の見学も行いました。

1年生から参加しているという新会長の小西亜香里さん(2年)は「皆が協力して、楽しみながら活動できるのが、部の良いところ」と語ります。ボランティア活動に興味があって1年の後半から参加したというのは、遠藤勝敬さん(同)と石橋マティンさん(同)。2人とも「年次大会などを通じて他校の人たちと交流していきたい」と抱負を述べます。遠藤さんらからの誘いで今秋に入部した塩越祐吾さん(同)は、「あしなが募金」で「多くの人にチラシを受け取ってもらえて、やりがいを感じた」と笑顔で話しました。

顧問の中川昌枝教諭は「他校の生徒たちと協力して一つのものを作り上げていったり、ロータリアンら大人とも関わったり、生徒たちは他の部活では得られない経験をたくさんしています。そうした交流の中で異なるものも受け入れて自分を確立していくという経験は大きくて貴重」と語ります。

3年生4人が引退して、目下の悩みは1年生部員が少ないこと。小西さんは「こうした活動を次世代につなげていくためにも、興味をもって入ってきてほしい」と呼びかけています。



顧問の中川教諭(左)と部員たち

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は、警備会社「株式会社ゼンコー」代表取締役社長で同窓会副会長の海野弘幸さん(56)を埼玉県さいたま市大宮区の本社に訪ねました。



学生時代に追求したことが心の支えになる

株式会社ゼンコー代表取締役社長、うみの ひろゆき海野弘幸さん(56)(1986年 経済学部卒)同窓会副会長

— 大学時代の一番の思い出は？

「硬式野球部だったので、大学へは野球をしに行っていました(笑)。首都大学野球2部5位で入学して、2年の秋に1部昇格。3年秋はセカンドのベストナインに選ばれました。主将だった4年生春は1部4位になりましたが、2年の時の1部昇格が最もうれしかったですね。野球部では、努力すること、協調すること、耐えることの三つを学びました」

— 卒業後は銀行にお勤めに。その中で転機はあったのでしょうか。

「卒業して太陽神戸銀行(現・三井住友銀行)に入行し、主に関西方面や中部方面を中心に26年間勤めました。2012年に高齢になった父親が興した警備会社を事業継承することになり、戻ってきたわけです。証券会社に出向した際の経験を活かし、銀行の法人部・法人業務時代に事業再編や企業再生、成長事業の業務を担当し、新しいビジネスをどう生み出していくかを体験したことが私にとっての強みとなっています」

— 警備会社のトップになって思われたことは？

「2013年に東京で国体と『全国障害者スポーツ大会』があり、弊社で駐車場警備や手荷物検査を担当しました。その際、女性社員の積極的採用と障がい者の方の介助の知識と技術の習得が、今後の警備会社には必須と痛感しました。たくさんある警備会社の中での差別化が、女子力強化・活用と障がい者スポーツへ取り組みに結び付きました。新卒の若い女子社員を採用するために2016年に女子硬式野球部を創りました。全国から経験者が集まり、翌年に早くも全日本クラブ野球選手権で優勝を達成しました。約20人の部員たちは各支店や営業部にいて週2回練習します。仕事と野球を両立させることが基本方針で、来年度は4人の高校新卒者が内定しています。城西大学の入学式等におきましても、メンバーが警備員として活躍しています」

写真⑧。彼女たち指名で入ってくる仕事もあるんです。また、昨年は東京都障害者スポーツ協会に加入



し、社内向け講習会を開くとともに社員が各種大会でボランティアとして活動しています」

— 来年は東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。

「警備実績のある千葉・幕張メッセで行われるゴールボールをサポートすることになり、今年7月に日本ゴールボール協会とオフィシャルサプライヤー契約を結びました。協会の運営にも協力しています。ゴールボールは、視覚障がい者のために考案されたスポーツで3人1組のチームとなり、ボールを転がして相手のゴールに入れるスポーツです。日本の女子は強く、メダルの可能性もあるようです。障がい者スポーツへの参加が、安全・安心に向けたスキルを高め、本社の永遠のテーマである『人財育成』にもつながりつつあります」

— 「座右の銘」はありますか。

「『努力は天才に勝る』でしょうか。銀行には大学時代勉強していませんでしたので、“体力採用”で入行しましたが、30歳までは生涯で一番勉強しましたね。同期には、国立大学卒、有名私立大学卒もたくさんいましたが、仕事では負けたくないの気持ちでスタートしました。私の原点はやはり、城西で学んだ野球です」

— 今年から同窓会副会長に就任されました。

「関西勤務が長く、卒業以来ようやく埼玉に戻ってきたこともお引き受けした理由の一つです。育ててもらった原点に恩返しみたいなことができたいと思います」

— 後輩へのメッセージをお願いします。

「学生ですから勉学や部活動がベストなのでしょうが、アルバイトやボランティア活動でも何でも良いので、時間に余裕のある学生時代にしか出来ないことを追求してほしいと思います。その追求したことが社会に出た際に心の支えになると思います」

■ゼンコーグループ

ゼンコーの全身は1987年設立の全交警備。2017年に創立30周年を迎えて社名をゼンコーに変更した。グループには他に、ゼンコーサービス、ヒーローコーポレーション(人材派遣業)、行政書士法人リーガライズがある。ゼンコーは東京、埼玉、神奈川、千葉に10支社・2営業所を構える。従業員は約1300人。交通誘導警備、列車見張り、駐車場警備、イベント・雑踏警備、施設警備など多岐にわたる。本社は埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-337-1 全交ビル。TEL048-647-1211。

図書館だより

地域相互協力館の「図書館まつり」に参加

10月26、27日に鶴ヶ島市立中央図書館で開催された第32回図書館まつりで「ディスプレイの仕組みと光の不思議:液晶の“液”ってなに?」をテーマに当館資料の展示などを行い約180人の方にお立ち寄りいただきました=写真⑨。今回は理学部化学科准教授・橋本雅司先生に監修いただいた資料や器具を用いて偏光などの技術や光の性質を紹介し、実際に見て楽しんでいただきました。

初日開催のビブリオバトルには城西大学の学生3名=写真⑩も参戦し、うち1名はチャンプ本を獲得するなどおおいに

会場を盛り上げてくれました。

▷現代政策学部1年 石井竜太さん紹介 『ヤバい心理学:眠れなくなるほど面白い』(チャンプ本)

▷現代政策学部2年 平山優史さん紹介 『先駆者の条件:ロータリーエンジン開発に燃えた「マツダ」の20年』

▷現代政策学部2年 久住幸己さん紹介 『機動戦士ガンダム』



左から石井さん、平山さん、久住さん

「全国大学ビブリオバトル2019～首都決戦～予選会」および「地区決戦」出場

10月2日に「全国大学ビブリオバトル2019～首都決戦～予選会 城西大学」を7階ラーニングコモンズで開催しました=写真⑪。今年度は過去最多17名のバトラーが3試合に分かれて発表を行い、学生や教職員など述べ137人の観戦者の投票により以下の3冊がチャンプ本に選ばれました=写真⑫。

▷経済学部1年・竹末愛瞳さん紹介 『風に舞いあがるビニールシート』

▷理学部化学科4年・寺谷充斗さん紹介 『シェイク・オブ・ウォーター』

▷現代政策学部2年・内藤僚紀さん紹介 『コーヒーが冷めないうちに』

予選会を勝ち抜いた竹末さんは11月10日の関東Dブロック、寺谷さんは11月12日の関東Cブロック、内藤さんは11月17日の関東Bブロック地区決戦に出場しました。3人ともチャンプ本獲得はなりませんでした。それぞれの本への想いを熱く語ってくれました。また11月3日に行われた「ビブリオバトルin高麗祭」も天候に恵まれ2年ぶりの屋外ステージ開催で多くの方々に楽しんでいただきました。



戦～関東



左から竹末さん、寺谷さん、内藤さん

学生アドバイザーが第21回図書館総合展に参加

11月12～14日に、パシフィコ横浜で開催された「第21回図書館総合展」に参加しました。ポスターセッションは昨年に引き続き、学生アドバイザーが主体となり「図書館探検」をテーマに当館を紹介するポスターを作成しました=写真⑬。昨年は優秀賞を受賞したので、今年は最優秀賞を目指し立体的な仕掛けや、図書

館に関わる方々へのインタビューを盛り込み今まで以上に力を入った内容となりました。また「第4回全国学生協働サミット」では、ミニポスター掲示や自作PR動画の

上映、ミニプレゼンテーションでの登壇=写真⑭=を行ったほか、フォーラムでは全国の大学から集まった学生協働に関わる学生や教職員との交流を図りました。



展覧会開催報告

水田美術館では9月～11月に下記展覧会を開催しました。関連企画としてアーティストによるワークショップやギャラリートークなどの開催。また、授業では浮世絵版画の摺り体験や学芸員による浮世絵の解説などを行いました。

浮世絵meets紙の魔術師

江戸のペーパークラフト組上絵×太田隆司ペーパーアート展 ——時代を超えて出逢う紙の世界(9月10日～10月5日)——

浮世絵の中のおもちゃ絵の一種となる組上絵(上方では立版古という)を展示しました。厚紙に貼り、描かれたパーツごとに切り抜いて立体的に組上げていく様子は現代のペーパークラフトにも通じます。平面の版画から立体空間へと生まれ変わる面白さを感じていただきました。併せて、「現代の組上絵」とも呼べる立体世界を作り上げる紙の魔術師、太田隆司氏のペーパーアート作品もご覧いただきました。

関連企画として9月28日に太田氏をお迎えし、講演会とギャラリートーク、ペーパーアートワークショップ「3Dメッセージカードを作ろう!」を開催。お客様に3Dメッセージカードの作成を体験していただきました。ギャラリートークではそれぞれの作品にあわせた音楽を流しながら作り手の思いを語っていただき、ご参加いただいたお客様からもご好評をいただきました。



説明する太田氏



展示風景



組上絵と組立完成品(複製)



3Dメッセージカードの完成

Art

美術館通信

サカツ・コレクション 日本のポスター芸術

——引札、ポスターにみる広告アートヒストリー——

(前期:10月23日～11月16日/後期:11月19日～12月21日)

日本のポスターの歴史の源流は、浮世絵や引札、絵巻などに求めることができます。実用的な広告印刷物でありましたが、時代が下ると次第に鑑賞に耐え得る芸術性が加えられていき、芸術作品としての価値を高めていきました。本展では、名古屋に本社を構え創業123年を迎える酒類販売の老舗会社、株式会社サカツコーポレーションが所蔵する500点を超える「サカツ・コレクション」中から、引札をはじめ、明治・大正・昭和までのポスター70点を厳選し前期後期に分けてご紹介しました。併せて、当館と水田記念図書館所蔵の引札、ポスターも展示。本展を通し、日本の広告芸術の歴史を知るとともに、それぞれの時代の美人像や風俗、世相を反映した魅力あふれるポスターの世界をお楽しみいただきました。

関連企画として11月9日に水田三喜男記念館講堂で田島奈都子氏(青梅市立美術館学芸員)による講演会「サカツ・コレクションにみる日本広告芸術の流れ」を開催=写真。12月7日には当館でギャラリートーク「美人画ポスター鑑賞のツボ」を開きました。



展示風景

次回展覧会

久保孝久風景画展

——自然を見つめて——

(I期:2020年1月7日～25日/
II期:2020年2月4日～22日)

埼玉在住の日本画家、久保孝久氏の風景画作品を展示します。常に自然と向き合い、静けさの中にも僅かな時間の流れ、空気の変化をつぶさにとらえ、それを画面に表現する久保氏の風景画からは、高潔さを感じると同時に、どこか親しみのある気持ちも抱かせてくれます。本展では、院展に初入選した1981年から近作までの16点を2期に分けてご覧いただく予定です。

エリア紹介

ときがわ町

3年に1度 「萩日吉神社のやぶさめ」 来年1月に開催

3年に1度の「萩日吉神社のやぶさめ」が1月19日(日)に萩日吉神社西側の特設馬場で執り行われます。流鏝馬は、馬を馳せながら弓的を射る行事=写真=で、中世武士の間で盛んに行われました。

萩日吉神社の流鏝馬は、鎌倉時代の武家政権の先がけをなして上洛を果たした木曾義仲の家臣と伝えられる明覚郷(現ときがわ町)の3氏と大河郷(現小川町)の4氏により、天福元年(1233年)に奉納したのがはじまりと伝えられています。伝統行事としての流鏝馬は、埼玉県内ではときがわ町と毛呂山町の2カ所だけでしか伝えられていない大変貴重なもので、埼玉県指定無形民俗文化財となっています。

なお、馬場を神馬が駆け抜ける「朝まとう」は午前10時ごろから、弓を実際に射る「夕まとう」は午後3時ごろから奉納されます。当日は会場周辺で交通規制が行われます。西平運動場などを中心に臨時駐車場が設けられますので、お車でお越しの際は交通指導に従って臨時駐車場をご利用ください。問い合わせは、ときがわ町教育委員会生涯学習課(☎0493-65-1521)へ。



越生町

新春恒例 武蔵越生七福神めぐり

武蔵越生七福神めぐりは、商売繁盛の恵比寿「法恩寺」、福德・財宝の大黒天「正法寺」、音楽と弁才の女神・弁財天「弘法山観世音」、幸運と長寿の福祿寿「最勝寺」、長寿の寿老人「円通寺」、財宝の毘沙門天「龍穩寺」、福德円満の布袋尊「全洞院」をめぐる、約13*。3時間15分の自然豊かなハイキングコースです。



新年1月4日(土)には、毎年恒例の「第36回新春武蔵越生七福神めぐり」を開催します=写真。七福神をめぐって多くの福を手にし、幸せな1年のスタートとして歩いてみませんか。

【スタート】時間:午前9時～10時、

場所:法恩寺(越生駅から徒歩2分)

【ゴール】時間:正午～午後4時、

場所:東上閣駐車場

帰りは川越観光バス(黒山バス停～越生駅バス停:350円)をご利用ください。問い合わせは、越生町役場産業観光課(☎049-292-3121/内線145)まで。

東武線沿線情報

見どころ いっぱい 横浜ベイエリアへ お出かけしませんか

東武線沿線から、見どころいっぱいの横浜ベイエリアへは乗り換えなしで一直線。港町ならではの海辺の風景や、今の時期はイルミネーションも楽しめます=写真。中華街やオシャレなレストランで美味し

いディナーはいかがでしょう。

お出かけには便利でお得なきっぷ「東上横浜ベイサイドきっぷ」がおすすめです。

東上横浜ベイサイドきっぷは、東上線・越生線発駅～池袋間の往復と東京メトロ副都心線乗り降り自由、東急東横線の往復とみなとみらい線乗り降り自由がセットになったお得なきっぷです。問い合わせは、東武鉄道お客さまセンター(☎03-5962-0102/8:30～19:00/年中無休。※年末年始を除く)

